

～ウランの力で命をつなぐ 最先端がん治療～

がんは近年誰にとっても身近な病気となり、日本人の2人に1人は一生のうちに何らかのがんにかかり、3人に1人はがんが原因で亡くなるといわれています。

禁煙や食生活の見直し、運動不足の解消など日常生活習慣の改善によって、がんになるリスクを低くすることはできますが、完全に防ぐことはできません。

がんは基本的にすべての臓器、組織にできるもので、中でも肺、胃、大腸のがんは男女ともに患者数が増えており死亡率も高くなっています。

自分自身や家族、身近な人ががんと診断されたとき、多くの人が一番に考えるのは、治療法のことかと思えます。「標準治療」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、これは科学的な根拠に基づいて現時点で最も推奨され、利用できる最良の治療であることが証明されている治療法のことです。

現在、がんの治療方法としては「手術」「薬物療法」「放射線療法」「免疫療法」といった4つの主な方法があり、これらを単独、あるいはいくつかを組み合わせることで治療を目指しています。

これらの治療によって、がんと診断されてから5年以上生存している人は6割以上、10年以上の人は半数以上と、生存率が向上してきています。

しかし、がんの種類、症状によってはこれらの治療法では治療が難しい場合もあります。また、最善の治療法であったとしても副反応がでることはあり、体力的、精神的にダメージを受けて生活の質を落としてしまうこともあります。

このような課題を解決するために、多くの時間とお金をかけ、より良い治療方法の研究、新薬・医療技術の開発が日々進められています。

その中の1つに現在、岡山大学で研究が進められている「ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)」があります。BNCTは体に優しく効果の高い、最先端がん治療法として注目されています。

次回からはホウ素中性子捕捉療法のホウ素薬剤や治療機器について詳しく紹介していきたいと思えます。

